

日本著名教授铃木贞美来宁讲学 铃木贞美氏南京访问、二か所の大学で講義



日本著名教授鈴木貞美应邀来宁，分别于11月30日、12月1日在东南大学和南京大学作了题为《日本の「人文学」——与欧洲の差別》的学术报告。

鈴木貞美教授、日本近代文学著名学者、毕业于东京大学法国文学专业、国际日本文化研究中心教授。铃木教授是处于当今全球日本文学研究前沿最为活跃的人文学者之一。其研究领域跨文学、历史、哲学、思想、社会、艺术、宗教等多种领域并涉猎自然科学。他长期致力于「东亚知识性领域概念」之历史沿革的辨析与探究，在占有大量资料的基础上，对日本的近、现代文学史、文艺史乃至文化史进行了大胆的重编，其卓越的学术努力已受到国际学术界的广泛注目。富于启示性的论著已被译为多种外国文字出版。

鈴木教授已在中国做了30余次学术报告，本次是在其好友王述坤教授（东大外语学院日语系）的邀请和协力下来宁的。在东南、南大的讲演中，铃木教授阐述了从古至今、日本文化所受到的中国文化的影响，说明了其不同于欧洲文化的特异性，并指出当今时代学术研究的封闭主义已跟不上时代的发展，今后应大力提倡国际性、学际性和共同性研究。他的讲演使师生耳目一新，在学术研究的战略方向和研究方法上极有启迪。

目前，在铃木教授倡导和大力支持下，有关学界正在策划于明年10月在宁举办跨学科的大型日本研究国际性学术会议，该会的召开必将对有关学术研究的深化起到促进作用。

昨年十一月三十日と十二月一日の二日間、東南大学九龍湖校区及び南京大学逸夫館にて国際日本文化研究センターの鈴木貞美教授による《日本の「人文学」・ヨーロッパとの違い》と題された講義が行われた。

国際日本文化研究センターの鈴木教授は、東京大学フランス文学科卒業、日本近代文学界における著名な学者であり、現在日本文学研究の最前線で最も活躍している人文学者の一人である。また、文学・歴史・哲学・思想・社会・芸術・宗教等から自然科学に至るまで広範囲にわたって様々な研究に携わっている。教授は長期にわたり東アジアの知的システムの再編成に取り組み、日本の近現代文学史、文芸史ないし文化史に対し敢然なる見直しをすべきであるとし再編成を試みた。その優れた学術と実績は国際学術界からすでに注目されており、著作は世界各国で訳され出版されている。

鈴木教授はこれまでに中国各地で三十回以上学術講義を行ってきた。今回はもとより親交の深い王述坤教授（東南大学外国語学院日本語科）の協力のもと、南京を訪問。東南大学と南京大学で行われた講義では昔から今に至るまでの中国から日本が受けた文化的影響をはじめとし、ヨーロッパとの違いを指摘、今日の研究では封建主義はもはや時代遅れとなり、今後は国際性、学際性および共同性に重点を置いた研究を提唱すべきだともアピールした。目下、鈴木教授の提唱と力強い支持の下、学界では来年十月に南京で大規模な国際共同研究シンポジウムを企画している。